

# 中米におけるオンラインコース設計のための 日本語教師研修

—ニカラグアとエルサルバドルの事例から—

平田好・松田涼子

## 1. 前提

ICTの発達に伴い、日本語教育分野でも e-learning 教材やオンラインコース開発が活発に行われている。これまで、e-learning 教材（サイト、アプリ）開発に関する報告が多数行われている。そして2020年には COVID-19の影響により、各教育機関におけるオンライン授業が多数実施され、オンライン化に対応するための教師研修も各地で実施されている。しかし、対面授業の代替としてオンラインで実施するための研修が多数を占め、所定の日本語教育機関におけるプログラムがオンラインで完結することを目標として、コース設計を扱った教師研修に関する報告は管見の限りない。今後、需要が高まると考えられるオンラインコース設計、そのための教師研修に関する知見を共有することは日本語教育に裨益すると考え、国際交流基金メキシコ日本文化センター（以下、JFMC）が2018年及び2019年に実施した「オンラインコース設計のための日本語教師研修」について報告する。本報告では、ニカラグアとエルサルバドルの日本語教師を対象として研修を実施した経緯、研修の目的と内容、研修実施後の両国におけるオンライン日本語コースの実施状況を述べ、今後の課題を提示する。

なお、本稿における「オンラインコース」とは、所定の日本語教育機関におけるプログラムがオンラインで完結することを前提に設計されたコースである。また「オンライン授業」とは、対面授業による日本語コースの一部あるいは全部が、なんらかの理由によって対面で実施できない状況下において、代替的にオンラインで実施する授業を指す。

## 2. 実施の経緯

今回の教師研修は、ニカラグアとエルサルバドルそれぞれの日本語教師からの要請に応じて企画実施した。以下、両国の日本語教育の背景、ならびに研修実施に至る経緯について述べる。

ニカラグア・中米大学（Universidad Centro America 略称：UCA）言語センターは、同国唯一の日本語教育機関である。1993年より日本語教育を開始し、1995年以来 JICA ボランティアが派遣されニカラグア人日本語教師の育成に努めてきた<sup>(1)</sup>。次第に、ノンネイティブ教師がコースを安定的に運営する体制となり、中米カリブ地域の日本語教育を牽引する立場となった。

しかし同国では2018年4月より反政府デモが頻発しはじめ、政府が暴力的に取り締まったことにより多くの市民が死亡し、危険度があがった。5月より大学は閉鎖され授業が中断した。日本語授業を継続できない状況を憂慮した教師が、言語センター長及び在ニカラグア日本国大使館の広報文化担当官と相談し、オンライン授業の可能性を探った。しかし、同センターではオンライン授業の経験も知見もないため、教師研修が必要と判断し、JFMCにオンライン授業実施のための研修の企画実施を要請した。JFMCではニカラグアの状況を確認のうえ、2018年8月より9月まで研修を実施した。

その後、中米カリブ日本語教育ネットワーク<sup>②</sup>を通じて、ニカラグアの研修を知った国立エルサルバドル大学 (Universidad de El Salvador 略称: UES) 外国語学部の日本語教師より、2019年3月、ニカラグアと同様の研修実施の要望が JFMC に寄せられた。

エルサルバドルでは1970年代初頭より JICA ボランティアが派遣され一時中断があったものの、1995年より継続的に現地日本語教師との協働が行われてきた。しかし、近年の治安悪化に伴い、2017年7月からは派遣が行われていない。ニカラグアと同様、近年は現地ノンネイティブ教師のみで日本語講座を運営する状況が続いていた。また、国内治安の問題から、日本語学習を希望しながらも日本語講座に通学できない者が多く、オンラインによる日本語コースの必要性が高まっていた。現在、エルサルバドルの首都に日本語教育機関が4つある。UESの他、国立エルサルバドル大学外国語教育センター (El Centro de Enseñanza de Idiomas Extranjeros, Universidad de El Salvador 略称: CENIUDES)、ホセ・シメオン・カニャス中米大学 (Universidad Centroamericana “José Simeón Cañas” 略称: UCA) 言語センター、日本留学経験者の会 (Asociación Salvadoreña de Ex-becarios de Japón 略称: ASEJA) である。地方には日本語教育機関が全くないため、地方の学習希望者の要望には応えられていない。

両国ともに、ノンネイティブ教師が日本語コース運営を担い、大学及び日本国大使館と連携をとりながら、日本語教育の自立的発展のためにはオンライン日本語コース開設が必須と考えた背景がある。各教育機関の意志決定権者に対しては、オンラインコース開設のために必要な技術や知見を確実に獲得して、質の高いオンラインコースを提供することを確約した。その裏付けは、日本国大使館の広報文化班も認定した研修であり、政府系機関である国際交流基金の海外拠点である JFMC が企画実施する研修に参加することであった。つまり、研修実施に先立って、当該研修の修了証への署名者を日本国大使、JFMC 所長、大学言語センター長とする枠組みが作られていたのだ。研修要請者、つまり現地ノンネイティブ教師が日本語教育の生き残りをかけて自律的に動き、現地関係者の合意を得たうえで、JFMC 日本語教育アドバイザーに研修を企画依頼したという流れである。

### 3. 研修の目的

本研修の目的としては、大きく二点を設定した。一点はオンライン授業を軸とした全体のコース設計の方法を学ぶことである。もう一点は、模擬授業を通して、オンライン授業の実際を体験し、対面授業とオンライン授業の長所短所を把握し、どのような授業やコースが各現場のニーズに適しているかを考えることである。

ニカラグア、エルサルバドルの教師は JICA ボランティアが作り上げたコース設計を元に日本語講座を運営しており、これまでコース設計をしたことがなかった。そのため、オンライン授業だけではなく、オンラインコース設計のための研修が必要であった。

また、中米には政情が不安定な国が多く、ニカラグアのように突然の事件で対面による日本語講座が中断されたり、エルサルバドルのように治安の問題から JICA ボランティア派遣が中止されたり、日本語講座の継続実施上の困難が生じることがままある。また、日本語教育機関数が少なく、日本語教育機関は、ほぼ首都のみに存在する。したがって地方の日本語学習希望者の要望にこたえられていない。このような問題を解決し、安定的に授業が実施できる方法としてオンラインによる日本語講座が非常に有効であることは、現地日本語教師にとっても報告者にとっても明らかであった。しかし、従来実施してきた授業をオンラインに置き換えるだけでは、大学や言語センターがコースとして承認しない状況もあった。そこで、対面型日本語コースのコースデザインをそのまま使用したオンライン化ではなくて、オンラインで完結するコースを想定した設計ができるようになることを研修目的としたのである。

### 4. 研修概要

ニカラグアとエルサルバドル、それぞれの研修概要は、表1の通りである。

本研修は現地関係機関と JFMC との合意に基づいて企画された。したがって、上記要件を満たした者には、(ニカラグアの場合) 在ニカラグア日本国大使、JFMC 所長、中米大学言語センター長の署名入りの修了証、(エルサルバドルの場合) 在エルサルバドル日本国大使、JFMC 所長、国立エルサルバドル大学外国語学部長の署名入りの修了証が授与された。修了できなかったニカラグア人教師1名、エルサルバドル人教師6名の理由は出席率が70%に満たなかったためである。欠席理由は、2018年度国際交流基金海外日本語教師研修への参加1名、日系企業による短期雇用及び日本への出張要請4名、傷病による欠席2名であった。

表1 研修概要

	ニカラグア	エルサルバドル
実施期間	2018年8月29日 (水) ~9月21日 (金)	2019年3月22日 (金) ~6月7日 (金)
会場	オンライン (Zoom 利用)	オンライン (Zoom 利用)
目標	中米大学言語センターにて実施していた集合型対面授業と同様の内容を日本語学習者に提供できること	エルサルバドルにおける日本語教育の可能性を広げ、潜在的学習者にアプローチする機会をつくること
研修参加者	UCA ニカラグア人教師5名	UES、CENIUES、UCA エルサルバドル人教師12名
修了者数	4名	6名
講師主導による研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① e-learning 概観</li> <li>② 同期型オンライン授業のためのツール使用方法</li> <li>③ 対面授業からオンライン授業への移行で想定される課題の解決方法</li> <li>④ 対面授業で使用してきた教材のオンライン授業使用</li> <li>⑤ 模擬授業 (4時間)</li> <li>⑥ 模擬授業振り返り (2時間)</li> <li>⑦ オンラインによる試験実施方法</li> <li>⑧ 評価での留意点、まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① e-learning 概観</li> <li>② 同期型オンライン授業のためのツール使用方法</li> <li>③ 対面授業からオンライン授業への移行で想定される課題の解決方法 (1時間)</li> <li>④⑤ コースデザイン</li> <li>⑥⑦ 『まるごと 日本のことばと文化』の理念と指導方法 (各1時間)</li> <li>⑧⑨ 「JF にほんご e ラーニング みなと」の運用</li> <li>⑩ 各教育機関のコースデザイン発表</li> <li>⑪ 各自の教案発表</li> <li>⑫⑬⑭ 模擬授業 (各2時間)</li> <li>⑮ 模擬授業振り返り・オンラインによる試験実施方法・評価の留意点</li> <li>⑯ コースデザインまとめ (1時間)</li> </ul>
参加者による自主研修	①~④および⑦⑧前後に予習 (資料読解、討論)、復習 (課題提出) 各1時間	①~③および⑩⑮⑯前後に予習 (資料読解、討論)、復習 (課題提出) 各1時間 (ただし⑩の前は2時間)
実施時間	25時間 (講師主導: 13時間 (⑤⑥以外は各1時間)、参加者による自主研修12時間)	38時間 (講師主導: 23時間 (基本は各1時間30分)、参加者による自主研修15時間)
修了要件	出席率・課題提出共に70%以上 ただし、遅刻・早退2回で欠席1回。15分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。また参加していても、カメラが OFF の場合、欠席とみなす。	

## 5. 研修内容

まず e-learning を概観した。同期型と非同期型、それぞれの特徴を確認した上で具体例を紹介した。非同期型による日本語教育の事例としては「JF にほんご e ラーニング みなと」(以下、「みなと」)<sup>(3)</sup>の「まるごと自習コース」を挙げた。また、同期型としては、Zoom を利用した本研修を事例にして、対面授業との比較を行った。参加者の大半は、「みなと」の「まるごと自習コース」にアクセスした経験をもち、本研修以外にも JFMC が Zoom を利用して実施した研修への経験も持っていたため、自らの経験のもとに同期型と非同期型の長所と短所を理解した。そして、対面授業と比較してオンライン授業において短所となる点をどのように克服するかを検討した。次に、同期型で使用するツール (ビデオ会議システム) として、Google Hangout、Skype、Zoom の長所と短所を整理して、Zoom を実際に使用してみた。当時、研修参加者全員が Zoom による会議や研修への参加、チャットボックスの使用経験はあったが、個人アカウントは未登録で、ミーティングのスケジュールリング、画面共有、ホワイトボード、ブレイクアウトルーム等の機能を使用することがなかった。Zoom の無料アカウントを作成して、同一所属機関の教師と Zoom を利用した打ち合わせを行うことも、この段階では自主研修のひとつであった。

その後、研修参加者は自らの教育現場で蓄積したリソースをオンライン授業で活用する方法や、学習者が容易に参加できる方法を検討した。例えば、『まるごと 日本のことばと文化』(以下、『まるごと』)<sup>(4)</sup>や『みんなの日本語』を使用した対面授業のために作成したスライド資料をそのままオンライン模擬授業で使用することによって課題を発見した。教室内でプロジェクター投影する場合には円滑に動作するスライドであっても、Zoom の画面共有では動作しない場合もあること、教室内では簡単な理解確認が Zoom 会議室ではできない場合もあること、教室の黒板の前に並んで書き込みできる人数には限りがあるが Zoom では同時に多数が書き込みできることなどを、模擬授業及びその前後の作業で確認して随時課題を解決していった。

実際に各参加者が担当している授業を想定してオンライン授業の教案を作成して、Zoom を利用した模擬授業を行った。他の参加者や講師からの講評を受け、振り返り、教案を吟味して模擬授業を繰り返した。また、「まるごと+」<sup>(5)</sup>や「みなと」の「まるごと自習コース」の内容を確認したうえで、自らのコースや授業への使用についても現場に引き寄せて各自が検討した。同期、非同期の組み合わせ等も検討し、所属教育機関の環境や条件を勘案したうえで、参加者は教育現場で実現できる方法を探り、報告者は教案の添削指導及びコンサルティングを行った。その後、同期型、非同期型、対面授業の特性を活かしたハイブリッド型コース<sup>(6)</sup>を各自が設計し、所属機関の教師同士で実現の可能性に関する討議も繰り返した。そして、全ての授業をオンラインで実施する前提で、学習レベル分け、教材、レベル別目標設定、授業時間数、評価方法等も見直し、各機関でのオンラインコース案ができあがった。

なお、ニカラグアの教師は、既にコースデザイン、『まるごと』、「みなど」について JFMC が過去に実施した研修を受講していたため、本研修では省略した。模擬授業ではインターネットスピードなどの技術的課題もみつかったが、実習振り返りや自主研修で解決の方向を見出しながら、研修は着実に進行し、全てのプログラムを終了した。

研修期間は限られていたが、参加者は全員、各自の所属機関におけるオンラインコース開設という具体的目標をもっていった。引き続き JFMC からの支援を行うことを約すとともに、各教育機関で実施可能なオンラインコースの設計を続けることを確認した。

## 6. 研修参加者へのアンケート及びインタビュー調査

その後、ニカラグアでは補講をオンラインで行う事例はあったものの、オンラインコースの開設には至っていないことが関係者から伝えられていた。しかし、凶らずも COVID-19 の感染拡大によって、2020年4月よりニカラグアとエルサルバドルでオンラインでの日本語授業を開始せざるを得ない状況になった。そこで、研修参加者によるオンラインコースの実施状況、オンライン授業の実施状況を確認するとともに、本研修がオンラインコースや、オンライン授業実施にどのような影響を与えたか、いかなる成果があったかを確認するために、2020年6月に研修修了者を対象としてアンケートを実施した。

### 6.1 アンケート

#### 6.1.1 実施方法

Google Forms を利用し、設問は日本語とスペイン語の併記、選択式の設問を多くすることによって回答者の負担を減らし、より多くのアンケート回答が得られるように工夫した。まずは、ニカラグアとエルサルバドルの代表、計2名に Google Forms のリンクを送り、研修参加者への転送を依頼した。その結果、ニカラグア4名、エルサルバドル6名（研修修了者全員）より回答を得た。回答者がオンラインコースと、オンライン授業を混同しないように、アンケートは、オンラインコース設計についての項目とオンライン授業についての項目に分けた。

### 6.1.2 アンケート項目

アンケート項目は表2の通りである。

表2 アンケート項目

<p>オンラインコースについて</p> <p>(1) 研修内容で役に立った項目は何か。(本報告「4. 研修概要」の表1ニカラグアの講師主導による研修内容に挙げた8項目より3項目を選択)</p> <p>(2) 研修で学んだことをどのように活かしているか。(自由記述)</p> <p>(3) 所属機関において、現在オンラインコースがあるか。(選択)</p> <p>(4) オンラインコースの設計を担当しているか。(選択)</p> <p>(5) オンラインコースの設計をする上で役に立った項目は何か。((1)と同様の項目より3項目を選択)</p> <p>(6) オンラインコース設計をする上で困ったことは何か。(自由記述)</p> <p>(7) オンラインコースを改善するためにどんな内容の研修を受けたいか。(自由記述)</p> <p>(8) ((3)でオンラインコースがないと回答した場合) オンラインコースができないのはどうしてか。(複数選択)</p> <p>(9) 今後オンラインコースを開講するためにどんな内容の研修を受けたいか。(自由記述)</p>
<p>オンライン授業について</p> <p>(10) オンライン授業を実施しているか。</p> <p>(11) いつからオンライン授業を実施しているか。</p> <p>(12) オンライン授業を実施する上で役に立った項目は何か。((1)と同様の項目より3項目を選択)</p> <p>(13) オンライン授業を実施して困ったことは何か。(自由記述)</p> <p>(14) 今後オンライン授業を改善するために、どんな内容の研修を受けたいか。(自由記述)</p> <p>(15) ((10)でオンライン授業をしていないと回答した場合) オンライン授業が実施できない理由は何か。(複数選択)</p> <p>(16) 今後オンライン授業を実施するためにどんな内容の研修を受けたいか。(自由記述)</p>

### 6.1.3 アンケート結果

アンケート結果から、研修参加者にとって役立った研修内容(各回答者が3項目を選択)は、模擬授業実施(9名)、オンライン授業実施のためのツール使用方法(8名)、e-learning概観(6名)、対面授業で使用してきた教材のオンライン授業使用(6名)ということがわかった。なお10名の回答者中8名が「オンラインコースのコース設計をしている」と回答したが、報告者が把握している現地状況と異なっていた。つまり、オンラインコースとオンライン授業を混同して回答している可能性があった。そこで、アンケート回答及び現況確認のため、一部の回答者へのインタビューを2020年7月に実施した。

## 6.2 インタビュー

### 6.2.1 実施方法

コース設計をする立場の教師4名(ニカラグアUCA、UES、CENIUES、エルサルバドルUCA、計4機関の日本語教師代表)に約30分、Zoomを利用してインタビューを実施した。

## 6.2.2 インタビュー項目

インタビュー項目は事前に行った Google Forms でのアンケート回答を再確認すると同時に、実際にオンラインコース設計が行われているか、4機関の現況について尋ねた。

## 6.2.3 インタビュー結果

インタビューの結果、一部回答者は、オンラインコースとオンライン授業を混同して回答していることが判明した。ただし、報告者が企画実施した研修に対しては一定の評価がされており、研修があったからこそ COVID-19感染拡大に対応したオンライン授業への移行も円滑にできたとのことであった。そこで、インタビューによって明らかになったオンライン授業及びオンラインコースの実施状況について、第7項で述べる。

# 7. オンライン授業及びオンラインコース実施状況

## 7.1 ニカラグア

ニカラグア UCA では2018年7月に学部授業の一部が再開し、同年9月、言語センター日本語コースは土曜クラスのみを再開した。そして同年10月以降、土曜クラスの補講（なんらかの理由によって対面授業が実施できない場合、別の日程で実施）に限って Zoom 使用のオンライン授業が認められた。しかし、平日夜間クラスは依然として休止の状態が続いた。その代替として、非同期型の既成教材「まるごと自習コース」と、Zoom 使用のオンライン授業（ニカラグア UCA の教師によるライブレッスン）を組み合わせたコースを2019年4月より試験的に開講する準備が進められたが、結果的に大学から許可を得ることができなかった。大学学部課程で使用されている e-learning プラットフォームが言語センターでは使用できないことが理由のひとつであった。したがって、言語センターで多くのクラスが開講されている英語コースにおいてもオンライン化がされない状態が続いた。

一方、2020年3月、COVID-19感染拡大によって、突然、言語センターで開講されているクラスは全てオンラインで実施することがせまられた。日本語コースは土曜クラスのみを開講している状態であったが、担当の教師4名それぞれが授業をオンラインに移行した。対面授業と同一時間帯で Zoom を利用して授業を続けている。ブログサイトや動画投稿サイトも利用しながら各教師が工夫しながらオンライン授業を続けている。しかし、これまでの対面型日本語コースのコースデザインをそのまま使用してオンライン化を行ったため、各レベルにおける授業時間数や目標設定に齟齬が生じていることを教師たちは認識している。

そして、平日夜間クラスに在籍していた日本語学習者から平日オンラインクラスでの継続学習の要望が寄せられた。しかし上述したように言語センターとして開講することが困難なため、2020年6月、教師1名がプライベートでオンラインコースを開講した。「まるごと自習コース」

とライブレッスンを中心として独自の設計のもとに進行している。同教師は、同コースをパイロットとして、将来的には大学言語センターにおけるオンラインコースを設計する予定である。

## 7.2 エルサルバドル

エルサルバドルでは、2019年6月、研修終了直後より、CENIUES でオンラインコース導入に向けて検討を開始した。UES 外国語学部ではオンラインコース開設のためには大幅なカリキュラム改訂が必要とのことから日本語コース単独での導入は困難と判断した。エルサルバドルUCA言語センターにはオンラインコースのためのプラットフォームがあり、時間がかかるものの日本語コースへの対応を検討している。日本語教師によるオンラインコース開設の機運は高まったものの、2020年7月時点で、オンラインコースは実現していない状態である。

一方、2020年3月よりCOVID-19の影響で、UES 外国語学部、エルサルバドルUCA言語センターでは急遽、対面授業の代替としてオンライン授業を実施することとなった。しかし、これまで実施してきた通常の対面授業で構成されるコースをオンラインで実施しているにすぎず、評価法なども十分に検討されていない。

なお、CENIUES では、コース開始前に全てのレベルのオンラインコース・カリキュラムが必要であるとの判断から、オンラインコースが開講されず、3月開始の学期から授業が中断している。そこで、大学ではなく、本研修に参加した有志の日本語教師たちがエルサルバドル日本語教師会を日本語コース実施主体として、オンラインコース設計、カリキュラム作成を行っており、早ければ9月に、オンラインコースを開始する予定である。

## 8. 成果

本研修の成果について、3.研修の目的で示した二点から検討する。上記アンケート及びインタビューの結果から、ニカラグアUCA、エルサルバドル日本語教師会では、現在オンラインコースの設計を行っていることが判明した。一点目の目的であるオンライン授業を軸とした全体のコースの設計方法を学ぶということは一部の研修参加者は達成できたと考えられる。しかしながら、オンラインコースは現在、計画段階であり、コース運用は2020年9月以降となる。今後も現地日本語教師と緊密に連絡をとり、しかるべき支援をすることがJFMCに求められている。

二点目の目的は、模擬授業等を通して、オンライン授業の運用を体験し、対面授業とオンライン授業の長所短所を把握し、どのような授業、コースがニーズに適しているかを考えることであった。この点については、現時点で、研修参加者全員がオンライン授業を実施しており、アンケートの結果でも、模擬授業が役に立ったと回答している教師が多いことから、本研修の目的は達成できたとと言える。また、COVID-19の影響で急遽対面授業ができなくなった状況で

も、円滑かつ速やかにオンライン授業に移行できたことは、本研修で e-learning についての知識を得たこと、オンライン授業のツールの使い方を習得していたこと、対面授業で使用してきた教材のオンライン授業での使用方法を検討していた等、本研修で学んだことが役立っている結果だと言える。

現在、すでに様々な機関、教師が対面授業からオンライン授業へ移行し、オンライン授業の充実を図っている。本研修は対面授業からオンライン授業へ移行する際に発生する可能性がある課題についても対応しており、オンラインコース設計の実現には至らずとも、オンライン授業実施については成果があったと考えられる。

## 9. 今後の課題

2018年、2019年に研修を実施した時点では、オンラインコースはもちろんのこと、オンライン授業を担当したことがある研修参加者はいなかった。しかし、現時点では全員がオンライン授業を担当し、オンラインコースの設計を始めている教師もいる。今後、教育現場の状況を把握したうえで、各現場に即したオンラインコース設計が可能となるような教師研修を提供することが必要であろう。

また、オンラインコースが実現していない理由を確認すれば、高等教育分野では各大学独自の e-learning プラットフォーム利用が進んでいるが、言語教育分野、特に日本語教育に特化した e-learning の存在は日本語教師には知られているものの、大学の意思決定者に認知されているとは言い難い状況があり、全世界的に有効に活用されている事例もまだ一部である。

プラットフォームとしての「みなと」における教師サポート付きコースは国際交流基金の拠点のみが運用できる。全世界的に有効に活用されているプラットフォーム事例はまだ一部である。e-learning プラットフォームは教育現場の状況によって様々な利用方法が考えられる。移動の自由の阻害、教室確保の困難化が発生した場合、非同期型による独習と、同期型によるライブレッスンあるいは教室における集合型対面学習を組み合わせた日本語コースの存在は大きな意義がある。また居住地域に日本語教育機関がない学習者に対しては、独習以外の方法を提供することになる。今後、「みなと」をはじめとする日本語教育に特化した e-learning の認知度向上を図るとともに、非同期型と同期型を組み合わせたコースを企画・運営できる日本語教師を育成するべく研修開発を行っていくことも求められるであろう。

本報告は中米における2か国の事例である。しかし COVID-19の影響により全ての分野でオンライン化が一気に進んだことにより、本事例が全世界の日本語教育に寄与することを期待する。

〔注〕

- <sup>(1)</sup> ニカラグアにおける JICA ボランティアの活動については、下記 WEB サイトを参照のこと。黒田直美 「7つの海のむこうで 第1回ニカラグア」『日本語教育いどばた』 <<https://www.idobata.online/?p=1192>> (2020年8月26日)
- <sup>(2)</sup> 同ネットワークについては下記文献に詳しい。太田恵美・玉村香奈 (2019) 「中米カリブ日本語教育ネットワークの成果と意義－現地教師の視点から－」『海外日本語教育研究』8、16-34
- <sup>(3)</sup> 国際交流基金が提供している日本語学習プラットフォームである。 <<https://minato-jf.jp/>> (2020年12月15日)
- <sup>(4)</sup> JF 日本語教育スタンダード準拠日本語コースブック。国際交流基金編著・三修社発行。
- <sup>(5)</sup> 「まるごと+ (まるごとプラス)」は、『まるごと 日本のことばと文化』の内容に沿って、日本語や日本文化が学べるサイトである。 <<https://marugotoweb.jp/ja/index.php>> (2020年11月30日)
- <sup>(6)</sup> 「同期型」とは、設定された授業時間に Zoom などのビデオ会議システムを用いて教師と学習者が同時に接続して授業を進める方法である。「非同期型」は、オンライン上で教師が用意した資料やビデオに学習者が自身の都合に合わせてアクセスして学びを進めていく方法である。オンデマンド型という場合もある。教師と学習者が同時にオンライン接続する必要はない。「ハイブリッド型」は、同期型と非同期型双方、あるいはオンラインと対面型を組み合わせさせた形態を指す。